



安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/06/26
SDS整理番号 05158250

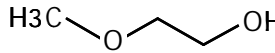
製品等のコード : 0515-8250、0515-8260、0515-8270、0535-8280、0515-8280、0515-8290

製品等の名称 : 2-メトキシエタノール（メチルセロソルブ）

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途（当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。）
溶剤（塗料用、接着剤用、インク用）、化粧品原料（清浄用化粧品、
頭髮用化粧品、基礎化粧品用、メイクアップ化粧品、芳香化粧品、
日焼け・日焼け止め化粧品、爪化粧品、口唇化粧品、口腔化粧品、
入浴用化粧品等）など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	: 区分3
自然発火性液体	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	: 区分に該当しない〔区分5(国連GHS分類)〕
急性毒性（経皮）	: 区分4
急性毒性（吸入：蒸気）	: 区分4
皮膚腐食性/刺激性	: 区分に該当しない〔区分3(国連GHS分類)〕
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分に該当しない
生殖毒性	: 区分1B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 区分1（中枢神経系、血液系、腎臓）、 区分3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 区分1（血液系、精巣）
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	: 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ（経口）
皮膚に接触すると有害（経皮）
吸入すると有害（蒸気）
軽度の皮膚刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
中枢神経系、血液系、腎臓の障害

呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による血液系、精巣の障害

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	2-メトキシエタノール (別名) 3-オキサブタン-1-オール、メチルセロソルブ、エチレングリコールモノメチルエーテル (英名) 2-Methoxyethanol、3-Oxabutane-1-ol、Methyl cellosolve、Ethylene glycol monomethyl ether、2-methoxyethanol (EC名称)、Ethanol、2-methoxy- (TSCA名称)
成分及び含有量	2-メトキシエタノール、98.0%以上
化学式及び構造式	CH ₃ OCH ₂ CH ₂ OH、C ₃ H ₈ O ₂ 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	76.10
官報公示整理番号	化審法：(2)-405 安衛法：公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	109-86-4
TSCA	登録済 TSCA名称；Ethanol、2-methoxy-SNUR名称；2-methoxyethanol 40 CFR part 721 Subpart E；10001 TSCA6条；-
EC No.	203-713-7
REACH：高懸念物質(SVHC)	該当「2-Methoxyethanol」(Candidate List)
危険有害成分	2-メトキシエタノール

4. 応急処置

吸入した場合	： 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	： 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	： 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。

- 飲み込んだ場合：口をすすぎ、うがいをする。
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入：錯乱、咳、咽頭痛、めまい、頭痛、吐き気、意識喪失、嘔吐、脱力感
皮膚：吸収される可能性がある。
「吸入」の項を参照。
眼：発赤、痛み、かすみ眼
経口摂取：腹痛、下痢、吐き気、嘔吐。
他の症状については、「吸入」の項を参照。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
使ってはならない消火剤：棒状注水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
特有の危険有害性：引火性が高い。
極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
引火点(39℃)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性もある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は風上から行き、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：危険でなければ漏れを止める。
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
技術的対策：裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
引火点(39℃)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
炎、火花または高温体との接触を避ける。

局所排気・全体換気	： 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
安全取扱い注意事項	： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策	： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	： 日光や高温を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 施錠して保管する。 危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質 容器包装材料	： 酸化剤 ： ガラスなど。 ： アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 0.1ppm
許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH	： 生物学的ばく露指標）： 5ppm 16mg/cm ³ 皮膚吸収性あり TLV-TWA 0.1ppm 皮膚吸収性あり
設備対策	： 防爆の電気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。 静電気放電に対する予防措置を講ずる（アース等の使用）。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 液体
性状	： 無色透明
色	： 弱芳香臭
臭い	： データなし
pH	： -85
融点	： データなし
凝固点	： 約124
沸点	： 39（密閉系）
引火点	： 引火性
可燃性	： 下限 2.3 vol%、 上限 24.5 vol%
爆発範囲	： 0.83 kPa（20℃）
蒸気圧	： 2.6
相対ガス密度（空気 = 1）	： 20℃での蒸気/空気混合

気体の相対密度(空気 = 1)	: 1.01
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 0.964~0.969 (20/20)
溶解度	: 水に極めて溶けやすい(混和しやすい)。 エタノール、ジエチルエーテルに極めて溶けやすい (混和しやすい)。 アセトン、グリセリン、ジメチルホルムアミドと混和する。
オクタノール/水分配係数	: log Kow = -0.77 (測定値)
発火点	: 285
分解温度	: データなし
粘度	: 1.71 mPa·s (= 1.71 cP) (20)
動粘度	: 1.77mm ² /s(20) (計算値)
粒子特性	: データなし
GHS分類	
引火性液体	: ICSC(2003)による引火点は39 (密閉式)は、 23 かつ 60 であることから、区分3とした。 引火性液体及び蒸気(区分3)
自然発火性液体	: 発火点は285 (Ullmanns(E) (6th, 2003))で7あり、常温の空気 と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	: 酸化剤と反応し、爆発性のペルオキシドを生成し、火災や爆発の危険を もたらす。 熱、炎に曝すと可燃性である。 蒸気は空気より重く低所に滞留して爆発性混合ガスを作る。 塩ビ樹脂(軟質、硬質)、アクリル樹脂は侵される。 クロロブレンゴム、ナイロン、ふっ素樹脂は、耐久性がある。 銅、アルミニウムなどの卑金属及びその合金は腐食されることがある。
避けるべき条件	: 高温、日光、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 2370 mg/kg, 2460 mg/kg(環境省リスク評価第4巻(2005)) 3250 mg/kg, 3400 mg/kg(ECETOC TR 95 Volume (2005)) 2300 mg/kg, 3900 mg/kg(PATTY (5th, 2001)) に基づき、区分5とした(国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5)
経皮	ウサギ LD50 = 1280 mg/kg, 2000 mg/kg(環境省リスク評価第4巻(2005)) 皮膚に接触すると有害(経皮)(区分4)
吸入	(蒸気) ラット LC50(4時間)=16,000 mg/m ³ (=5,136 ppm)(CICAD 67 (2010)) 吸入すると有害(蒸気)(区分4) 吸入(ミスト) 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギを用いた一次刺激性試験で本物質483 mgを24時間適用した試験におい て軽度の刺激性ありとの報告がある (IUCLID (2000))。 区分3とした(国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 軽度の皮膚刺激(区分3)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分に該当しない。 ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、 本物質原液0.1 mLを適用した結果、適用後24-72時間の刺激性の平均スコア が結膜発赤 1.3-1.1、結膜浮腫 0.5-0.2、角膜混濁 0.2-0.0を示し、刺激性 なしとの報告がある (BUA 198 (1996))。
呼吸器感作	: 分類できない。
皮膚感作性	: 分類できない。 モルモットのマキシマイゼーション試験の結果、本物質は皮膚感作性物質 ではなかった (CICAD 67 (2010))との記載はあるが、それ以上の記載は なく試験条件および試験結果を含め詳細不明のため、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。 in vivoでは、ラット及びマウスの優性致死試験、染色体異常試験、マウス の小核試験、ヒト末梢血及びマウス骨髄細胞の姉妹染色分体交換試験で弱い 陽性結果も混じるが概ね陰性の結果である (NITE初期リスク評価書(2007)、 産衛学会許容濃度の提案理由書(2009)、CEPA (2002)、ECETOC TR95(2005)、 CICAD 67 (2010)、DFGOT vol. 6 (1994)、PATTY (6th, 2012))

発がん性	: 分類できない。 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性	: マウスおよびラットの雌雄を用い、交配前から交配期間、分娩、哺育期間に至るまで飲水投与した、NTP連続交配プロトコールによる生殖試験において、生存産仔数の減少、受胎率の低下、妊娠回数の減少がみられた（化学物質の初期リスク評価書 88 (2007)）こと、この飲水投与試験のラットでは受胎率の低下がさほど顕著ではなかったが、強制経口、吸入および経皮投与した生殖試験では明確に認められた（化学物質の初期リスク評価書 88 (2007)）こと、さらに、妊娠動物を用い主に器官形成期に投与した発生毒性試験で、マウスに胎児死亡、前後肢の指の奇形（合指、短指、欠指、多指）、骨格奇形（頸椎弓の分岐・分離）、外表奇形（外脳の発生率の増加、ウサギに吸収胚、外表奇形（関節拘縮、内反足、無爪、短指、欠指等）、内臓奇形（心室中隔欠損、鎖骨下動脈形成不全、無腎、腎奇形、腎盂拡張、横隔膜ヘルニア、卵巣欠損等）、骨格奇形（指骨欠損）の発生率の増加、ラットでは、胎児死亡、自然発生的に見られない心血管系の奇形発生、アカゲザルでは胎児死亡の増加がそれぞれ報告されている（化学物質の初期リスク評価書 88 (2007)）ことから区分1Bとした。生殖能又は胎児への悪影響のおそれ（区分1B）
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	: ヒトにおいては、気道に軽度の刺激性を有する。吸入経路で、咳、咽頭痛、めまい、頭痛、吐気、嘔吐、錯乱を生じ、高濃度の場合には意識喪失の場合がある。経口経路では、事例報告より、急性影響として死亡、悪心、チアノーゼ、呼吸亢進、頻脈、代謝性アシドーシス、錯乱、激昂などの中枢神経症状、急性出血性胃炎、急性肺炎、腎臓の黒色化及び尿細管の変性、脳と髄膜にうっ血水腫（NITE初期リスク評価書（2007））、肝臓の脂肪変性、腎臓の黒色化及び尿細管の変性、脳及び髄膜の水腫、うっ血、代謝性アシドーシス、肺の障害（環境省リスク評価第4巻（2005）、CICAD 67（2010））の報告がある。さらに、CICAD 67（2010）で、ヒト疫学的データから神経系への影響が示唆されるほか、血液系への影響があると明確な関連性が記載されている。実験動物では、ラットなどで経口、吸入、経皮経路において、血液学的影響（CICAD 67（2010））、マウスの吸入で肺、腎臓の障害（産衛学会許容濃度の提案理由書（2009）、ACGIH（7th, 2006））、経口で肺の浮腫、肝臓の軽度の傷害、腎臓の重度の傷害、ヘモグロビン尿（PATY（6th, 2012））、ラット、マウスの395 mg/m ³ 以上の吸入で、回避・逃避条件反応の抑制、パルビツール酸塩誘発性睡眠時間の延長、四肢の部分的麻痺といった神経毒性試験の報告（CICAD 67（2010））がある。これらの所見は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。なお、肝臓、肺の所見については、本物質の二次的影響とした。 以上より、区分1（中枢神経系、血液系、腎臓）、区分3（気道刺激性、麻酔作用）とした。 中枢神経系、血液系、腎臓の障害（区分1） 呼吸器への刺激のおそれ（区分3） 眠気又はめまいのおそれ（区分3）
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	: ヒトの職業ばく露による疫学研究において、本物質にばく露された男性作業員の群では非ばく露対照群と比べて、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値が有意に低下し、貧血の発症率は対照群の3.2%に比し、ばく露群では26.1%と増加していた。ばく露群において明確な血液毒性所見がみられた時点、その後、職場環境の改善を行った2.5ヵ月後及び6ヵ月後に作業場で測定した本物質気中濃度とばく露群における尿中代謝物（メトキシ酢酸：MAA）濃度を追跡測定した結果、両者は高い相関性を示し、本物質ばく露と血液毒性発症とは関連性があると考えられた（CICAD 67（2010））。この他、疫学研究報告には精子形成阻害がみられたとの報告がある（NITE初期リスク評価書（2007）、ECETOC TR95（2005）、CICAD 67（2010））。実験動物では、ラットに13週間飲水投与した試験において、区分2に該当する用量（70 mg/kg/day）で胸腺及び精巣の萎縮がみられ、マウスの13週間飲水投与試験でも区分に該当しないの高用量で精巣に重量減少及び組織変化がみられている（NITE初期リスク評価書（2007）、CICAD 67（2010））。また、ラット又はウサギに本物質蒸気を13週間吸入ばく露した試験においても、区分2相当の濃度（0.31-0.93 mg/L）で、白血球数、ヘモグロビン濃度及びヘマトクリット値の減少、並びに精巣萎縮がみられている（NITE初期リスク評価書（2007）、ECETOC TR95（2005）、CICAD 67（2010））。以上より、ヒト及び実験動物での知見に基づき、区分1（血液系、精巣）とした。 長期又は反復ばく露による血液系、精巣の障害（区分1）
誤えん有害性	: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 長期(慢性)：	区分に該当しない。 魚類（メダカ）96時間LC50>88.9mg/L(NITE初期リスク評価書，2007)
水生環境有害性 長期(慢性)：	区分に該当しない。 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（良分解性（2週間でのBODによる分解度：73、82、94%）（既存点検，1988））、 甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC > 84.8 mg/L (NITE初期リスク評価書，2007)、藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）の72時間NOEC _r 93.2(NITE初期リスク評価書，2007)であることから、 区分に該当しないとした。
残留性・分解性	： 良分解性。BOD分解度 = 73、82、94%
生物蓄積性	： 低濃縮性。Log Kow = -0.77
土壤中の移動性	： データなし
オゾン層への有害性	： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 （参考） 燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。 活性汚泥処理法
汚染容器及び包装	： 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号： 127

国際規制

海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）

UN No.	： 1188
Proper Shipping Name	： ETHYLENE GLYCOL MONOMETHYL ETHER
Class	： 3（引火性液体）
Sub risk	： -
Packing Group	： III
Marine Pollutant	： No（非該当）
Limited Quantity	： 5L

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No.	： 1188
Proper Shipping Name	： Ethylene glycol monomethyl ether
Class	： 3
Sub risk	： -
Packing Group	： III

国内規制

陸上規制情報（消防法、道路法の規定に従う）

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

国連番号	： 1188
品名	： エチレングリコールモノメチルエーテル
クラス	： 3
副次危険	： -
容器等級	： III

海洋汚染物質	： 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	： Y（エチレングリコールモノアルキルエーテル）
少量危険物許容量	： 5L
航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）	
国連番号	： 1188
品名	： エチレングリコールモノメチルエーテル
クラス	： 3
副次危険	： -
容器等級	： III
少量輸送許容量	： 10L
特別の安全対策	： 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載する。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	： 名称等を表示すべき危険物及び有害物 （政令番号 第80号「エチレングリコールモノメチルエーテル（別名メチルセロソルブ）」、対象重量%は 0.3） 名称等を通知すべき危険物及び有害物 （政令番号 第80号「エチレングリコールモノメチルエーテル（別名メチルセロソルブ）」、対象重量%は 0.1） （令別表第9） （注）令和7年4月1日以降、政令番号：規則別表第2の第270号に変更 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 第2種有機溶剤等「エチレングリコールモノメチルエーテル」 （施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号） 作業環境評価基準「エチレングリコールモノメチルエーテル」 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質「皮膚吸収性有害物質」 「エチレングリコールモノメチルエーテル、対象重量%は 0.3」 （安衛則第594条の2）
労働基準法	： 有機則で送気マスク又は防毒マスクの着用が義務付けられている業務（ドラフトチャンバーがない場合など）および作業環境測定で第3管理区分と評価された場所における業務での女性労働者の就業禁止対象物質 （法第64条の3、女性労働基準規則第2条第3条） 疾病化学物質 （法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号）
化審法	： 優先評価化学物質 No.23（官報公示日：2011/04/01） 官報公示名称「エチレングリコールモノメチルエーテル」 評価対象；人健康影響 旧第二種監視化学物質 No.1028（官報公示日：2010/04/01） 官報公示名称「エチレングリコールモノメチルエーテル」
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	： ・種別 「第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-78」 ・管理番号 「58」 ・政令名称 「エチレングリコールモノメチルエーテル」
消防法	： 危険物第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体 指定数量2000L 危険等級 （法第2条第7項危険物別表第1）
毒物及び劇物取締法	： 非該当
船舶安全法	： 引火性液体類（危規則第2、3条危険物告示別表第1）
航空法	： 引火性液体（施行規則第194条危険物告示別表第1）
海洋汚染防止法	： 有害液体物質、Y類物質「エチレングリコールモノアルキルエーテル」 （施行令別表第1）

- 大気汚染防止法：有害大気汚染物質（中環審第9次答申の241）
「2-メトキシエタノール（別名：エチレングリコールモノメチルエーテル）」
揮発性有機化合物（VOC）（法第2条第4項）
「エチレングリコールモノメチルエーテル」
- 輸出貿易管理令：キャッチオール規制（別表第1の161項）
HSコード：2909.44
第29類 有機化学品
・輸出統計番号（2024年1月版）：2909.44-000
「エーテル、エーテルアルコール、エーテルフェノール、エーテルアルコールフェノール、アルコールペルオキシド、エーテルペルオキシド及びケトンペルオキシド（化学的に単一であるかないかを問わない。）並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
- エーテルアルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体：エチレングリコール又はジエチレングリコールのその他のモノアルキルエーテル」
- ・輸入統計番号（2024年4月1日版）：2909.44-000
「エーテル、エーテルアルコール、エーテルフェノール、エーテルアルコールフェノール、アルコールペルオキシド、エーテルペルオキシド及びケトンペルオキシド（化学的に単一であるかないかを問わない。）並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
- エーテルアルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体：エチレングリコール又はジエチレングリコールのその他のモノアルキルエーテル」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献：		
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社	
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)	
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編	
化学大辞典	共同出版	
安衛法化学物質	化学工業日報社	
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版	
化学物質安全性データブック	オーム社	
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版	
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修	
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM		
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)	HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター	HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。